

医療ニーズ;手術後の体内遺残物検出システム



医療ニーズ提案部門
滋賀医科大学 附属病院 放射線部

■放射線部ホームページ

http://www.shiga-med.ac.jp/hospital/doc/department/central_clinic/radiology_dep/index.html

「体内に遺残物の残さないようにしたい」

■ニーズの背景

- 手術では、メスや針、ガーゼなど多くの器具を使用している。
- 手術終了時に、体内にこれらの器具が残っていないかをチェックする必要がある。

■現在の対応方法

- 手術後にポータブルのX線撮影装置で患者を撮影し、体内に物が残っていないかを確認する。
- 手術部位を閉じてから撮影しているので、もし何かが見つかったら再び開腹しなければならない。
- 放射線技師がくるまで待って、X線で撮影するが、遺残物を見逃す可能性もある。

■使用頻度や市場性(マーケットサイズ)に関する情報

- 本院の手術件数: 8,670件(ただし眼科手術などでは使わず)
- 医療用ディスプレイ52製品で2016年度2,413億92.9百万円

出典: <http://www.shiga-med.ac.jp/hospital/doc/hospital/record/index.html>
https://www.yano.co.jp/market_reports/C59108800

【イメージ・参考例】



機能アイデア例

- 体内に出し入れするモノの所在を知る機能
- 体内に出し入れするモノをカウントする機能
- 体内に残っていることを知らせる機能

お問合せ先

滋賀医科大学 研究推進課 産学連携係

電話: 077-548-2847

メール: hqsangaku@belle.shiga-med.ac.jp